

## 第64th 信州上肢外科研究会 報告

日時 平成26年3月15日 土曜日 16:00~21:00

場所 ホテル ブエナビスタ

参加人数 53名 (会員16名、非会員37名)

### 1) ミニレクチャー 座長 安曇総合病院 石垣範雄 “ビスフォスフォネート Update” 信州大学 内山茂晴

ビスホスホネートは骨折抑制効果のエビデンスを有し、服用間隔を延長することが可能である。・ビスホスホネート服用に関連すると考えられる副作用には顎骨壊死、急性期反応があげられ、非定型的大腿骨転子下・骨幹部骨折(Atypical femoral fracture)との関連が指摘されている。・これらの副作用の発生率はきわめて低いが、適切に使用されることが求められる。副作用に比べ、骨粗鬆症に関する本薬の有用性が勝るため、臨床現場では最も使用されている。(2011 骨粗鬆症ガイドライン)

#### 非定型大腿骨骨折：大・小特徴\*

##### 主たる特徴\*\*

- ・小転子遠位部直下から顆上部の直上までに生じる
- ・外傷なしか、立った高さからの転倒時のような軽微な外傷に関連する
- ・横骨折か、短い斜骨折像
- ・粉碎なし
- ・両骨皮質を貫通する完全骨折で内側スパイクを認めることがある；不完全骨折の場合は外側のみに生じる
- ・外側皮質の限局性の骨膜反応

##### 小項目

- ・骨幹部の皮質骨厚の全体的な増加
- ・単径部または大腿骨部の鈍痛またはうずく痛みといった前駆症状
- ・両側性に起こる骨折と症状
- ・骨折治癒遅延
- ・合併症 (例えば、ビタミンD欠乏、関節リウマチ、低リン血症)
- ・薬剤の使用 (例えば、ビスフォスフォネート、ステロイド、プロトンポンプ阻害剤)

\*特に除外されるのは大腿骨頸部骨折、転子下らせん骨折に連続する転子間骨折、原発性あるいは続発性の骨腫瘍に関連する病的骨折、インプラント周辺骨折である。

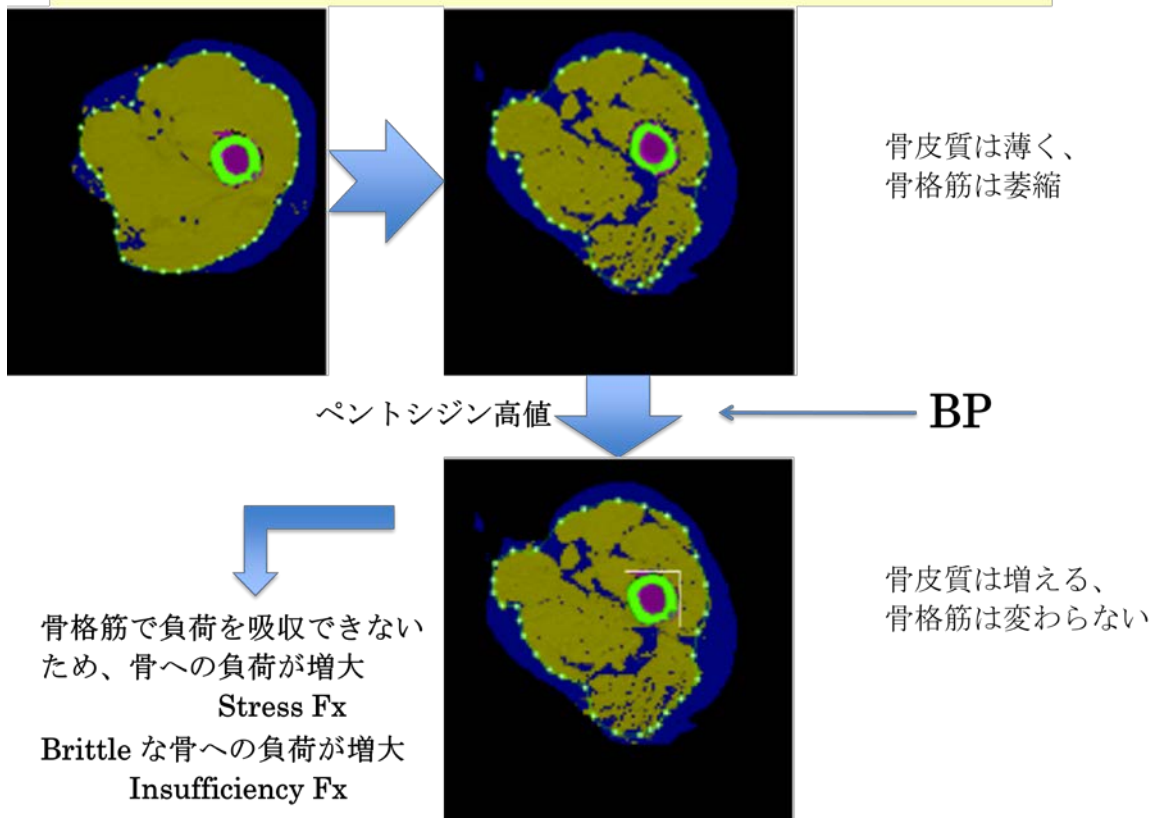
\*\*非定型大腿骨骨折の症例確定には全ての主たる特徴を満たすことが必要である。小項目は認められなくても良いが、時にこれらの骨折と関連を認める。

\*\*\* “beaking(くちばし状)”あるいは “flaring(炎様)”と文献ではしばしば述べられる。

Shane E, et al, J Bone Miner Res 2010より引用

・非定型大腿骨骨折(AFFs)に関する全国調査:わが国の非定型大腿骨骨折患者数は大腿骨骨折の約 0.4% で、BP 投与例は 56%であった。BP 3年以上(53.3%)が多かった。萩野 2014 委員会報告 JJOA 2014;88:60-65.

加齢、あるいは骨粗鬆症とともに骨、筋、筋内脂肪は、、、



### まとめ or Take Home Messages

- 長期BP投与→骨代謝抑制
- ペントシジン蓄積
- 低い骨格筋量
- Brittle Bone
- 繰り返される負荷
- 外側皮質には伸展力
- 内側皮質には圧迫力
- 骨は伸展に弱い
- 外側皮質内にmicrocrack集積
- 十分に治癒しない
- AFFs発生

AFFsはストレス骨折or Insufficiency 骨折  
単純X線像で特徴的な所見を有する。  
(横骨折、骨折部での骨膜反応、粉碎少ない)  
臨床所見  
(先駆症状として大腿部痛、両側性)

BP使用との関連はありそう。特に3年以上の長期投与  
BP投与無しでも生じる。――骨粗鬆症骨折の一つ  
BP中止でリスクは減じる  
ステロイドとの関連もある。

BP使用では相対リスク: 2.1~128,  
絶対リスクは低い: 3.2~50例/100,000人年

今後もデータ集積が必要: リスク患者の同定とBP投与期間の決定

2) 特別講演 座長 安曇総合病院 畑幸彦

『肩関節鏡視下手術による挑戦：ドンキホーテよ何処へ行く』

大阪厚生年金病院 スポーツ医学科 部長 米田 稔 先生  
肩関節鏡視下手術の変遷についての講演。現在、腱板断裂に対しては**Net like DUFF**法、反復性肩関節脱臼には**TAFF**法を行っており、関節窩骨欠損の大きい症例に対しては**Neobone**を用いた**TAFF**法にて再建を行っている。投球肩障害にはほとんど手術を行っていないが、**SGHL**と**MGHL**の機能回復を目的に関節唇損傷の修復を行うことがある。

質問 新町病院 下川

自身の施設でも **DAFF** 法を行っている。

今後 **RSA** (**Reverse Total Shoulder Arthroplasty**) が導入されるが、**RSA** についての見解は？

回答：**RSA** は現在適応がかなり絞られている。偽性麻痺の症例はきちんとしたリハビリを行っていればそれほど数はいないため、実際に **RSA** を必要とする症例は限られていると思われる。

質問 安曇野赤十字病院 関

鏡視下手術で **LHB** 周囲の病変にはどのように対応しているか？

返答：実際に結節間溝内に限局した炎症による痛みの症例を経験し、**transverse Ligament** を切除しただけで改善したことがある。**LHB** 周囲の観察とそれに応じた処置が必要である。